

郷土資料館だより

V o 1. 20. No.3
1998. 3. 20

ヒーナサンのお節句 (ひな節句)

旧暦の3月3日は上巳の節句です。上巳は人日(1月7日)、端午(5月5日)、七夕(7月7日)、重陽(9月9日)とともに五節句と呼ばれ、年間の五つの重要な節日の一つとされてきました。上巳の意味は旧暦3月の「上旬の巳の日」で、中国での年中行事が日本に入り、平安時代の宮中では曲水の宴を張り、祓えを行うようになったと言います。やがて「上巳の祓え」という形が貴族の間に残り、形代として人形を作り、それにけがれを移して海や川に流して不浄を祓ったのが始まりで、各地に残っている「流しびな」の民俗の原形になったと言われます。「上巳の祓え」は、江戸時代にひな祭りとして急速に庶民の間に浸透し、やがて上巳の節句はヒーナサンのお節句(ひな節句)という呼称で現代に受け継がれてきました。

この日(三島周辺の農村地域では一月遅れの4月3日)、女の子のいる家庭ではヒーナサンを座敷に飾り、菱餅やあられ、白酒を供えて、子どもの成長を祝います。特に長子が女の子だった場合は「ハツゼック」(初節句)と呼び、誕生後最初のひな祭りを盛大に祝います。ヒーナサンは嫁の実家から贈られる例

が多く見られます。緋毛氈を敷きつめて段飾りに飾る豪華なものから、ガラスケース入りの団地サイズのもの、または座布団や毛布、おひつなどの家財道具類など、女子の生活に結びついたさまざまなものが贈られました。こうしてたくさんの贈り物をいただいた側では、オカエシと呼ぶひな祭りのオフルマイを盛大に催します。いわば「お披露目」で、座敷に飾ったヒーナサンの前に着飾ったこどもが座り、親類や近所の人々にまでご馳走が振る舞われます。このように現在では上巳の節句は「女の子の節句」としてすっかり一般の間に定着し、商業主義によって華美に過ぎる傾向さえ見せています。

また、3月3日に近い大潮の日、九州や南西諸島で伝統的に行われてきた行事がありました。「磯遊び」です。この日には家族みんなが海辺に出て、飲食したり、踊ったりする習慣があったといえます。これも古いひな祭りに由来したもので、水辺に出て祓えをする行事の変化したものと考えられます。

このように本来の年中行事は、長い歴史の間に変化をしたり、また地方独特な形となったりするものです。

企画展

き た う え 村

平成10年(1998)3月21日～5月10日

北上村一箱根山麓の農村

北上村は三島の北部地域にあった村です。明治22年(1889)町村制が実施された時、近世の村落である伊豆佐野村・徳倉村・幸原村・壺町田村・沢地村が一つとなり北上村として発足しました。昭和10年(1935)4月に三島町と合併してその名が消えるまで、箱根山麓の農村として静かな生活が営まれていました。

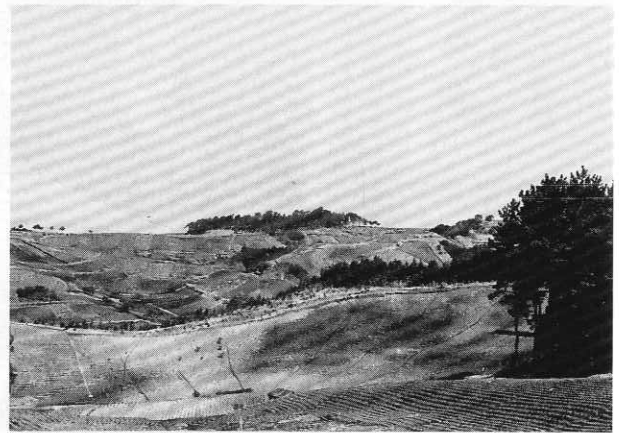
農民は稲作を中心に養蚕、畑作、ことに北上特産の甘藷(さつまいも)作り、あるいは箱根山に入ったの稈刈り、ホダ・タキギとり、山の開墾と休む間もなく働き、そうした北上村と農業に大変誇りを持っていたものです。

氏神の祭礼は村あげてにぎやかに催されました。特に4月10日、末広山の「馬頭観音講」では草競馬が催され、村中の人々が集まり、桜の花の下、声援を送ったものでした。

素朴な農村風景は、大正8(1914)年野戦重砲兵連隊が三島町との境に移転してきた頃から変わっていきます。戦後、連隊跡地が文教地域に変わり、昭和30年代(1955～)から次々と住宅が建ち始め今丘陵は住宅で埋め尽くされてしまいました。

合併当時、人口約2,600人、413戸と小さな農村だった北上村は、60年後には人口27,310人、世帯数9,553人と10倍にふくれ上がりました。北上村の時代を知る人はわずかとなりましたが、全国から集まった人々により、新たな北上の地域文化が作られつつあります。

▼造成を始めた頃の光ヶ丘(昭和42年(1967)頃)
壺町田より見た風景



▲徳倉の開墾畑(昭和10年(1965)頃)
明治30年代(1897～)より入会地山林の開墾が始まった。

北上のなりたち

北上地域は旧境川から東の箱根山麓にかけての一带です。この境川は、江戸時代初期の「亥の満水」の時、青木橋付近から流路を変え現在の大場川へ水が落ちるようになったといわれます。

箱根の丘陵には縄文時代の遺跡が数多く発見されています。古くから有名なのは千枚原遺跡と反畑遺跡で縄文時代中期の竪穴住居跡・土器片・鏃などが多数発見されました。この時代、箱根山麓には多くの人々が生活を営んでいたと推定されています。

稲作は境川上流、宮川、中川、沢地川の河川の水を引き込む形で発達したと考えられ、弥生時代以後の遺跡をみることができます。

中世は、伊豆佐野村・徳倉村・沢地村が箱根権現(箱根町)領でした。戦国時代には徳



▲三島北上甘藷祭り(昭和28年(1953)10月16日、徳倉小学校)甘藷音頭の歌と踊りも披露された。



▲12貫入りのさつま俵(北上農協広場)

倉城(砦)が北条氏によって築かれ、武田・今川・北条の勢力争いの地となっています。

江戸時代に入ると、天領(伊豆佐野、徳倉、幸原)、三嶋大社領(壺町田)、箱根権現領(沢地)と領主は異っても、甲州道(佐野街道)沿いの村であり、箱根西麓に共有の入会地を持つこともあって、5ヶ村は連帯を強めていきました。

北上の生業

〈稲作〉

広い平野のない北上地域は、箱根西麓から流出する中小河川が作る小扇状地や河岸段丘に水田が開かれました。河川の水を耕地へ引き込む用水は江戸時代にその多くが完成し、長く大切に整備され続けました。

明治以後、収獲量を増やすため耕地整理事業も行われています。特に大正12・13年(1923・4)に実施された徳倉の耕地整理事業は大掛かりなもので、ハダヤーと呼ばれた湿田も美田に生まれ変わりました。しかし、この事業の金銭負担は大きく徳倉農民は苦勞したと伝えられます。

〈畑作〉

屋敷周りの畑の他、明治以後、山の開墾が進み丘陵一帯が畑に変わりました。養蚕が盛んだった大正時代までは桑が植えられました。後に連隊駐屯地となった地域も一面の桑畑でした。昭和に入る頃から根菜類の栽培が盛んとなります。特に甘藷(さつまいも)は関東ローム層の土壤に適していて「山北印の三島いも」は日本一という評判をとり、主に関西方面に出荷されました。昭和28年(1953)10月、徳倉小学校校庭で催された「三島北上甘藷祭り」は三島いもの生産の頂点でした。

〈山仕事〉

里山は農家にとって貴重な生産の場で、冬はホダ・タキギとり、落ち葉かき、夏は牛馬の飼料となる秣刈り、クサヤネの茅刈りと、自然の恵みを受けた生活でした。



▲徳倉尋常小学校の子供達
着物・ぞうりの子供がほとんどであった。

東海道 宿場を歩いて 西東

—ふるさと講座「東海道を歩く」を終わって—

郷土資料館では、一般市民を対象に「ふるさと三島」をより深く理解してもらうために毎年「ふるさと講座」を開催しています。

今年は、「宿場町」として発展した三島の町を知ってもらうように、「東海道の宿場を歩く」と題して3回にわたり、吉原・原・沼津、そして三島の宿場を見て歩きました。



▲宿場の名残りを今に伝える老舗の旅籠



▲富士市立博物館「目いっぱい 腹いっぱい 東海道」展にて

第1回「吉原宿を歩く」12月18日(休)

講師 杉沢 文雄氏 (郷土史研究家)

参加者 36名

行程 (吉原宿)

富士市立博物館(「目いっぱい 腹いっぱい 東海道」展見学)～左富士神社～平家越え～陽徳院(身代わり地蔵・閻魔堂)～天満宮(吉原宿の鬼門除け)～本陣・旅籠跡～雁(かりがね)堤

第2回「原宿・沼津宿を歩く」1月22日(休)

講師 瀬川 裕一郎氏
(沼津市歴史民俗資料館学芸員)

参加者 33名

行程 (原宿)

桃里改称記念碑～共進学舎記念碑～要石神社～旧一里塚～渡辺本陣跡～高札場(昔の御触書が掲示された)～問屋場跡(宿場の馬や人足の数を管理した)～松蔭寺(白隠禅師ゆかりの寺院)



▲白隠禅師ゆかりの松蔭寺宝物殿にて



▲昔の本陣もすでになく(沼津中心街)

第3回「三島宿を歩く」1月30日(金)

講師 辻 真澄氏(郷土史研究家)

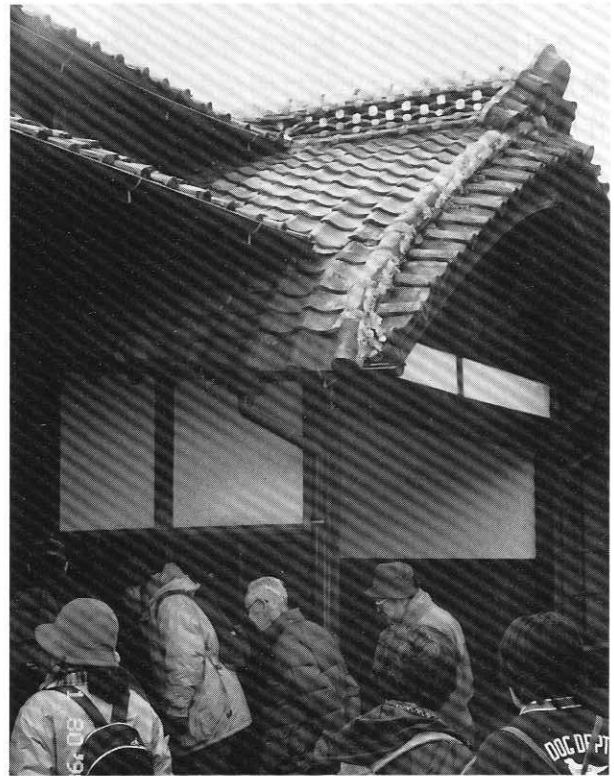
参加者 29名

行程(三島宿)

新町橋(東の見附)～河合家(三島曆の発行元)～三嶋大社～三嶋代官所・陣屋跡～問屋場跡～円明寺(樋口本陣の門)～長円寺(世古本陣の門)～御殿神社(将軍上洛の際、利用した御殿の跡)～時の鐘(三ツ石神社)～蓮馨寺(芭蕉の句碑)～千貫樋～秋葉神社(西の見附)

行程(沼津宿)

妙伝寺～西見附(宿場の出入り口)～問宮・清水両本陣跡～問屋場跡～三枚橋城跡～高札場～沼津湊(河川の荷揚げ場)～東見附～一里塚



▲三島曆発祥の地 河合家



▲世古本陣の門の残る長円寺

おかげさまで、3回にわたり開催しましたふるさと講座「東海道を歩く」も、好評のうちに無事に終了いたしました。

郷土資料館では、来年度もまた新たなテーマで、ふるさと三島を訪ねる旅を続けたいとおもいます。



新収蔵品紹介

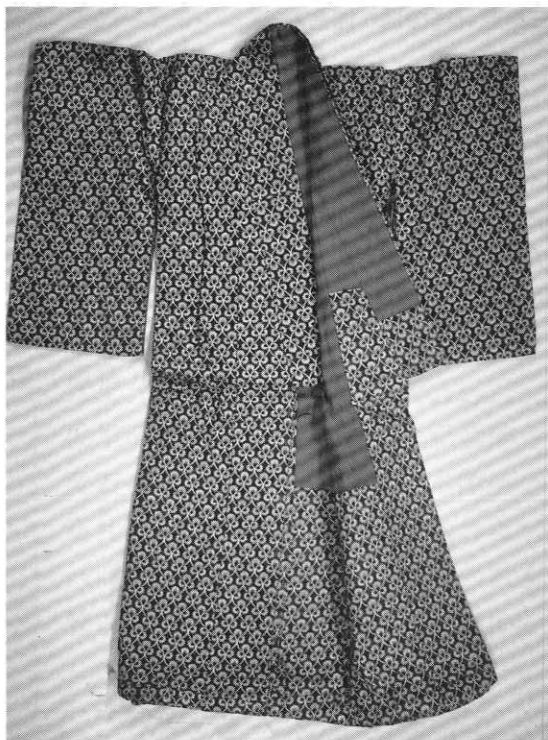
三島市民の皆様からご連絡をいただき、郷土資料館には新しい収蔵品が日毎に増えています。多数の寄贈品の中から、今回は二種類の資料を紹介いたします。

1 衣類雛形

合計28点の衣類の雛形の寄贈を受けました。雛形の作成・使用年代は明治末期の頃です。作成者は伊藤きくさん(明治21年・1888生まれ)。きくさんが娘時代に「県立静岡裁縫女学校」で作ったものです。

明治時代の大多数の女子は義務教育を終ると家事や家の仕事を手伝いながら花嫁修業をしたものだといえます。現代のように、上級学校に行ったり、就職するような例は少なく、きくさんのように裁縫学校に行くことは普通以上に恵まれた教育環境にあったと言えるでしょう。

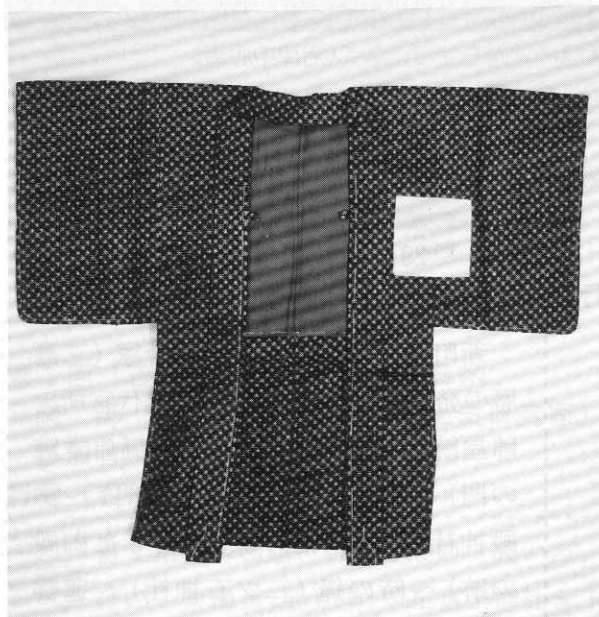
雛形は一覧表のようなものですが、これからは、日本古来の和装にモダンな洋装を取り入れた斬新な意匠の衣類を作ろうとしたことが分かります。明治末期から大正にかけての時代の世相を反映しているように思えます。



▲本重ね



▲セーラー服



▲羽織(男物)

(資料一覧)

No.	資料名	数量
1	帽子	3
2	長袖 袴	1
3	袷裳	1
4	広袖	1
5	前掛け	2
6	チョッキ	1
7	股引き	2
8	〃 (半)	1
9	腹掛け	1
10	セーラー服	1
11	体操服 (上下)	1組
12	コート (男)	2
13	〃 (子供)	1
14	〃 (袖ナシ女)	1
15	洋服	1
16	袴	1 (下と1組)
17	上衣	1 (上と1組)
18	馬乗袴	2
19	シャツ	1
20	本重ね	1
21	その他 (羽織など)	3
	計	24点

2 護符等の掛け軸

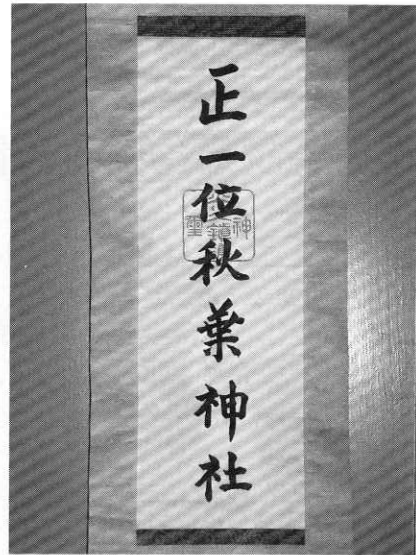
伊豆佐野の勝俣家から寄贈を受けました。44点のさまざまな護符は、幕末の天保年間頃から明治にかけてのもので、実に多種類にわたるものです。

当時の勝俣家が頻繁にももの参りの旅を行い、各地の寺社やお堂でもらってきた護符の類を信仰していたかが分かります。

今回収集できたものは一覧表にしてありますが、遠くは播州明石や伊勢、紀州の寺社があり、伊勢参りや西国巡礼を行ってきたことが知れます。近くでは駿州御厨や豆州内浦三津の霊場めぐりなどの足跡が分かります。また、このように各地のもの参りで手に入れた護符の多くは、公文名村（現在の裾野市公文名）の表具師に軸装にすることを依頼し、その記録を一本一本の軸に記しています。このことは、単に巡礼の旅の土産としてだけでなく、同家が各地の寺社を信仰し、願いをかけていた証拠と言えるでしょう。

（資料一覧）

No.	資料名	No.	資料名
1	秩父巡礼観音	23	信州戸隠山九頭竜大権現
2	鬼鹿毛馬頭尊	24	観音
3	菅神御像	25	江州多賀大明神
4	腹帯観音	26	大山不動尊
5	天照皇大神	27	正一位秋葉神社
6	天照皇大神	28	帝睦仁天皇
7	伊豆国龍爪神社	29	箱根神社神号
8	諸神系図	30	霊符尊神
9	西国八番	31	天照皇大神
10	道了大権現	32	大國主大社・事代主大社像
11	江州竹生島出現尊像	33	大黒天
12	西国巡礼	34	西宮大神
13	和州安倍山文殊堂	35	出雲大社 天王尊像
14	天照皇大神	36	不動明王
15	庚申堂 庚申像	37	天照皇大神
16	播州明石人丸山	38	庚申堂(像)
17	青面金剛像	39	観音像
18	厄神明王	40	出雲大社 大黒尊像
19	御年徳八将神	41	秋葉山 秋葉寺略縁起
20	秋葉山大権現	42	西宮大神宮 えびす
21	白澤避怪図	43	天照皇大神宮 三宝大荒神
22	天照皇大神他六大神	44	大日如来像



▲正一位 秋葉神社



▲御年徳 八将神



▲出雲大社 天王尊像

お知らせ

「三島宿解説案内板」設置

この春、郷土資料館では、1階玄関ホールに「三島宿解説案内板」を設置します。

これはいままでの「伊豆半島観光案内板」に代わって新たに企画製作したものです。解説案内板では、タッチパネルの操作により、宿場の絵が光ったり、コンピュータの画面に名所・旧跡の絵や写真があらわれてナレーションがながれます。

紹介される情報も宿場に伝わる言い伝えや昔話、川や神社仏閣にまつわるエピソードなど盛りだくさんです。またご希望される方には、これらの情報を印刷するサービスも用意されています。

ご来館の際には、ぜひご自分の目や耳で、「三島の宿場」を体験されてはいかがでしょうか。

運営協議会委員改選

郷土資料館の円滑な運営を図るため、郷土資料館運営協議会が設けられています。

このたび、二年間の任期が満了したことに伴い委員が改選されました。

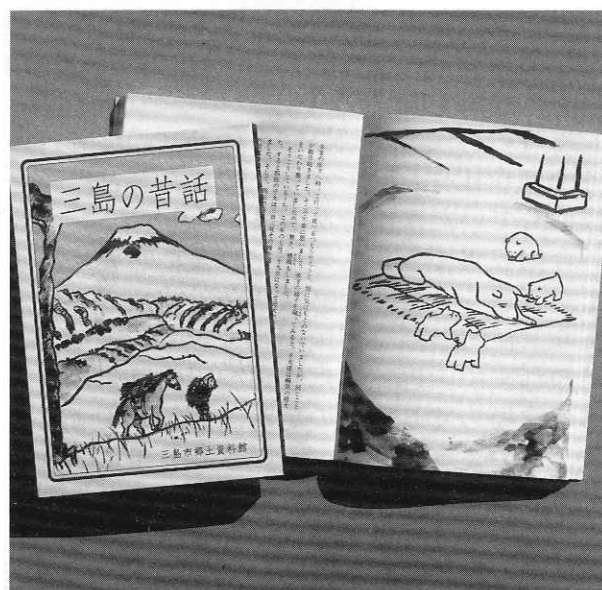
新しく委員を委嘱した方々は、次のとおりです。貴重な助言・意見をお願いいたしております。

(50音順・敬称略)

番号	氏名	住所
1	秋山 直樹	三島市初音台5-1
2	池谷 節子	三島市徳倉739-4
3	迫田 信行	田方郡韮山町中1254
4	鈴木 辰巳	三島市夏梅木872
5	鈴木 利貞	沼津市本字千本1906
6	諏訪部敏之	三島市緑町9-25
7	中山 久子	三島市芝本町11-26
8	西川 惣三	三島市寿町9-33
9	藤巻 哲雄	三島市三恵台1-1
10	榎 茂彦	田方郡韮山町寺家28
11	山岡 修一	三島市文教町1-11-9
12	山田 益美	三島市加屋町2-32

任期 平成9年12月1日～平成11年11月30日まで

「三島の昔話」再版



みなさまからご好評をいただいております「三島の昔話」が、このたび再版されました。ふるさと三島にまつわるさまざまなお話を数多く収録しており、大人から子どもまで楽しめるように、大変わかりやすくなっています。

なお「三島の昔話」は、1階事務室にて、1部500円で販売しております。

利用案内

休館日 毎週月曜（祝日の場合は翌日）

12月27日～1月2日

開館時間 午前9時～午後4時30分

入館無料（但し、楽寿園入場の際、有料）

三島駅（南口）から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより No.60

平成10年（1998）3月20日発行

（年3回発行）

編集 三島市郷土資料館

住所 〒411-0036

三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL 0559-71-8228

FAX 0559-81-3730

発行 三島市教育委員会